

■第28回 STARTプログラム（オーストラリア）

2016年2月19日から3月7日までの約2週間、第28回 STARTプログラム（※）に学部1年生32人が参加し、小島 奈々恵研究員（保健管理センター）ほか2人の職員とともに、オーストラリア アデレード市にあるフリンダース大学に留学しました。

フリンダース大学では、全期間を通じて、附属語学学校の英語教師3人の指導の下、1グループ10～11人に分かれ、午前中は主として英語の運用力を伸ばす授業が組みられ、午後にはグループワークや現地学生との討論・交流を交えながら、オーストラリアの歴史、文化、環境問題等についての授業が行われました。授業では、随所にプレゼンテーション技法や日本人が苦手とする発音の練習、英語特有のフレーズ学習が組み込まれており、最初は英会話に付いていけなかった学生達も、日々の自学自習やホストファミリーとのコミュニケーションを経て徐々に対応できるようになるなど、忙しくも充実した毎日を過ごしました（通常プログラムは8:30より16:00頃まで、また2日に1回程度はホストファミリーと行う課題も）。

また、現地の小学校を訪問して、日本の教育現場との違いを肌で感じるとともに、折り紙や福笑いなどの日本文化を小学校の児童達に英語で紹介しました。学生達は、身振り手振りを交えながら、英語でのコミュニケーションを楽しみました。さらに、社会見学としてアデレード市内にある市場や博物館、繁華街も訪れ、現地の人々の日常に触れる機会を得ました。

その他、週末を利用して、課外活動として1泊2日で訪れたカンガルー島では、野生動物の生態や雄大な自然、ナイトツアーでは吸い込まれそうなほどの満天の星空に触れることができ、日本では得られない貴重な体験をしました。

また、研修期間中、すべての学生は一人一家庭にホームステイしました。食事や生活面のサポートがその中心ですが、中にはホストファミリーと休日に観光地へ出掛けたりするなど、一人ひとりが授業とは異なる経験を得ることができました。

大学での研修最終日には、オーストラリアと日本の相違を比較するという視点から、各グループが選んだ、食文化、産業構造、教育制度、スポーツ、動物保護、両国の国民性をテーマとして取り上げて、6つのグループが30分程度の英語による発表を行いました。この英語での発表を準備するに際しては、各グループとも現地学生へのインタビュー等を行いながら作り上げていきました。それまでに教わった発表スキルや発声・発音を意識しながら、アカデミックかつユーモア溢れる発表を行いました。

なお、発表後にはお世話になった先生方やホストファミリーと一緒に送別会を開き、附

属語学学校の英語教師から、一人ひとりに修了証が手渡されました。

帰国後の事後研修では、研修中の自身の成長を振り返るとともに、「日本に帰ってきて、英語を使わない環境に身を置いたとたん、コミュニケーション力が錆びつくのを実感した。これからは自発的・積極的に、継続して英語学習に取り組みたい。」といった声も聞かれました（今回の **START** プログラムから、参加学生全員が英語の達成目標を各自設定し、9月に **TOEIC** の点数を大学に提出予定）。客観的に自分を見つめ、今後の目標を設定し、達成に向けてどう努力すべきか、自らの人生を切り拓く指針のようなものを、学生達はこの短い期間中に掴み取ったのかもしれませんが、**START** プログラムの経験を経て成長した彼らの姿が印象的でした。



完成したばかりの学生ハブ（学生共用施設）前で



現地学生との討論